

御鎮座地

佐賀県唐津市南城内

JR唐津駅より北へ徒歩約13分・大手口バスセンターより徒歩約5分

御祭神

一ノ宮 住吉三神（底筒男命・中筒男命・表筒男命）

二ノ宮 神田宗次公・相殿 水波能女神

文化財

【唐津くんちの曳山行事】

国・重要無形民俗文化財 昭和五十五年一月二十八日指定

【唐津曳山・14台】 県・重要有形民俗文化財 昭和三十三年一月二十三日指定

【唐津神祭行列図】 市文化財（重要民俗資料） 昭和四十七年九月一日指定



唐津神祭行列図（部分）

御由緒

○神功皇后、三韓へ渡海に際し道中安全を住吉三神に祈願奉る。帰朝の後、御神徳著しきを感じ松浦の海浜に宝鏡を懸けて三神の霊を祀り給ふ。

○天平勝宝七年（孝謙天皇の御宇・西暦七五五年）、時の領主・神田宗次公、一夕神夢を得て海浜に至れば一筐の浮び来る有り。之を探りて開けば一宝鏡なり。之、正しく皇后の捧げ給ひしものならむと畏みて帝に奏聞す。この年、天平勝宝七年（西暦七五五年）九月二十九日に「唐津大明神」の神号を賜ふ。

○文治二年（一一八六年）、領主・神田廣、社殿を再建し、家祖・神田宗次公の神霊を合祀し二ノ宮とす。

○文安六年（一四四九年）、領主・波多三河守親、神田地を寄進し尊崇す。

○慶長七年（一六〇二年）、初代唐津城主・寺澤志摩守は唐津城築城に際し現在地に社地を設定し、社殿を新築し領内の守護神として崇敬せり。且つ城下の火災鎮護として水波能女神を相殿として勧請す。

○その後、大久保・松平・土井・水野・小笠原の各藩主も祈願所と定め領内の総社として崇敬す。

○明治六年（一八七三年）、郷社に列し「唐津神社」と改称す。

○昭和十七年（一九四二年）、境内拡張・社殿総改築成り縣社に昇格す。

御靈験

祭神・住吉三神は、祖神、伊邪那岐大神、禊祓給ひし時に成り坐せる神なれば、禍事清祓の靈威あり。又、三神は海を司る神として海上安全の靈験がある。水波能女神は火伏の神徳あり。其他、唐津の総氏神として諸事靈験を垂れ給ふ。

唐津神祭（からつくんち）十一月二日・三日・四日

唐津神祭は当社の秋季例大祭であり、一般に「からつくんち」と称され当地方最大の秋祭りである。「供日」と書き「くんち」と読まれることから収穫感謝の意が籠められている祭りであり、九日・宮日と書かれたことから、神社の祭礼の日をさす意味もある。

◆宵曳山（十一月二日）

いわゆる宵宮で、宵の刻、各町曳山は万灯をともして社頭に勢揃いする。

◆神幸祭（十一月三日）

神輿二基に供奉して、御神宝の曳山14台が氏子区内を神幸し、正午、明神台に至り御旅所祭を齎行す。

曳山が御旅所へ勢揃いする状を曳き込みと称し勇壮にして華麗であり、曳子と曳山は渾然融合し、正に一幅の祭礼絵巻を見る如くである。神幸はなく、曳き子と曳山だけの祭日である。夕刻、曳山を庫に納める際は、興奮の中にも感傷的な雰囲気包まれる。

◆翌日祭（十一月四日）



曳山社頭勢揃